

令和6年度 第2回大和市総合教育会議議事録

日 時 令和6年8月26日（月） 14時05分～14時40分
場 所 大和市役所 5階 研修室
出席者 市長、教育委員会（柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、及川委員、前田委員、森園委員）、市職員
傍聴人 1人
議 題 （1）教育大綱改定の方向性について
資 料 ・次第
・【資料1】 教育大綱改定の方向性について
・教育大綱（現行）

【会議要旨】

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

（1）教育大綱改定の方向性について

所管部 :（資料について説明）

教育長 : 私たちが直面している現代社会は、少子化・人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在し、将来の予測がますます難しくなっている。このような状況下で、私たちの教育は、未来を担う子どもたちの成長を支える重要な役割を果たしている。

教育は単に知識を伝えるだけでなく、子どもたちが自ら考え、判断し、行動する力を育む場でもある。そのため、私たちは多様な学びの機会を提供し、一人ひとりの個性や能力を尊重した教育環境を整えていくことが求められている。

また、地域社会との連携を強化し、保護者や地域住民と共に子どもたちを育てる環境を整えることも重要である。私たち一人ひとりが責任を持ち、未来を担う子どもたちの成長を見守り、支えていくことが必要とされている。

今後も、大和市の教育がより一層充実し、子どもたちが夢を持ち、自信を持って未来に羽ばたけるよう努めていく。

教育委員：子どもたちに「スポーツ」や「文化・芸術」に触れる機会を提供することは重要であり、そういった意味でも運動部や文化部の活動を、適切な形で維持していく必要があると考え、現在、本市では、部活動の地域移行を進めている。

部活動は、生徒の主体的で多様な学びの場、成長の場として、教育的意義は計り知れないと考えている。そのために生徒が自分自身の興味や関心に基づいて活動できる環境を整えることは、生徒一人ひとりの成長にとって非常に重要である。また、部活動の地域移行は、働き方改革の一つとして、先生方の負担軽減につながる重要な取り組みであると考えているが、全国的に、指導者や活動の場の不足など、多くの課題があり、教育現場だけでは進めることが難しいことから、地域と連携を深め、地域とともに取り組んでいくことが大切であると考え。大きな課題の一つである指導者の確保については、高齢でも現役で働いている方が多く、部活動のために時間を割いていただくのが難しいというのが現状である。そこで大和市では、部活動地域移行推進員や部活動指導員に、学校や地域の団体の方で構成される「大和市部活動地域移行推進協議会」に所属していただき、市全体で生徒の視点に立った部活動の地域移行を進めているところである。今後も、このような取り組みを通して、生徒が安心して部活動に取り組める環境を整えていきたいと考えている。地域の皆様と協力しながら、スムーズな移行を目指し、生徒の健全な成長を支援していく所存である。そして、先生方の負担軽減を図りつつ、より質の高い教育を提供できるよう努めていく。

所管部：中学校の部活動の地域への移行に向けて、大和市では、市内でスポーツ活動や文化活動をされている方の協力を得ながら、今年6月に「大和市地域移行推進協議会」を設立し、部活動地域移行推進員と部活動指導員の募集を開始した。

部活動地域移行推進員については、現在60名ほどの教員が登録されている。また、部活動指導員については、現在、選考の手続を進めているところである。

部活動は、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が非常に大きいことから、学校の教育活動の一環として実施されている。

大和市では、地域の方々の協力を頂きながら、部活動の教育的意義を踏まえ、生徒の視点に立った部活動の地域移行を進めていく。

所管部：先ほど委員もお話の中で触れられていた「スポーツ」や「文化・芸術」という視点で、文化スポーツ部における今年度の新たな取り組みを、一部、簡単ではあるが、ご案内したい。まず、「スポーツ」としては、今年はまさにスポーツの祭典であるオリンピックイヤーであり、パリオリンピックでは選手たちの努力と挑戦、チームメイトやスタッフ、時には相手選手との友情や絆など、様々なドラマが生まれ、日本のみならず世界中多くの人々に希望と感動を与えた。改めて、スポーツが持つ力を認識したところである。これから、パラリンピックの開会も控えており、ますますの盛り上がり期待される。

さて、本市のスポーツにおける新たな取り組みとして、サッカーの体験会についてご案内させていただきたいと思う。これまで、小中学生向けに実施してきた女子サッカー体験会に加えて、今年度からは中学生より上の世代の方を対象にした体験会を始めた。大和シルフィードの選手やスタッフにご協力いただき、6月には第1回の体験会を開催したところであり、大変盛況であった。来月以降も開催を予定しているので、引き続き多くの方にご参加いただきたいと思います。続いて「文化・芸術」として、今年度からの新たな取り組みである SORA アーティストについてご説明したいと思う。SORA アーティストとは、シリウスやポラリスなど公共の屋外スペースを音楽や大道芸、ダンスなどのパフォーマンスを行う場所として開放し、パフォーマーやアーティストの活動を支援するものである。SORA アーティストによるパフォーマンスは11月下旬ごろからを予定しており、現在準備を進めているところである。

こうした取り組みにより、子どもから大人までたくさんの方々が気軽にスポーツや文化芸術に触れる機会を提供できるようにすることは、教育という観点から大変重要であると捉えており、引き続き、事業を推進してまいりたいと考えている。

最後に、先ほどの資料により、総合政策課から説明のあった大和市生涯学習推進計画、現行の健康都市やまと MANABI 計画について、現在、文化スポーツ部で改定作業を進めているところである。今後、計画の素案が完成したら、教育委員の皆様にご覧いただき、ご意見を賜りたいと考えているのでお願いしたい。

教育委員：いじめの問題は、長年にわたり大きな社会的な課題として認識されてきた。しかし、今なおこの問題が続いている理由については、明確な答えを見出すことができない。ただし、現実にはいじめが発生しており、その影響は深刻である。特に、不登校といじめは切り離せない関係にあり、学校現場でのいじめを根絶することは非常に重要だと考えている。

いじめ対策としては、まず子どもたちがいじめに遭った際に、教師や保護者がその子どもたちの状況を把握し、問題が大きくなる前に事前に防ぐことが基本だと思う。しかし、現実にはこの基本的な対策が十分に機能していないため、大きな問題に発展し、不登校につながってしまうケースもある。

そのための具体的な対策として、匿名で相談・報告ができるアプリ「スタンドバイ」の活用が挙げられる。このようなツールを通じて、いじめに遭った子ど

もたちが誰かに相談できる経路を確保することが重要である。また、各学校で定期的に行われるアンケート調査も非常に有効だと考えている。子どもたちが自由に意見を表明できる場を設けることで、いじめの実態を把握しやすくなる。アンケートの結果を基に、学校側が適切な対応を行うことが求められる。

もちろん、現在の教育現場では先生方の働き方改革が進められており、多忙な中でのアンケート実施は大変かもしれない。しかし、子どもたちの人権を守るためには、この取り組みは非常に重要だと思う。大人たちが子どもたちに対して、「いじめは許されない」というメッセージを繰り返し伝えることも、大人の大切な責務だと考えている。

また、子どもたちのSOSを確実にキャッチし、その後の適切な対策や支援を行うことが求められる。私たちの目指すべきは、いじめによって悲しい思いをする子どもたちを一人でも減らすことである。そのためには、教育委員会、学校、保護者など子どもの周りにいる人たちが一丸となって取り組む必要がある。これからも引き続き、この問題に真摯に向き合い、具体的な施策を進めていきたい。

所管部 : いじめ問題の対策については、未然防止のため、児童生徒一人ひとりの人権が尊重される集団づくりを進めるとともに、共感的な人間関係や自己指導能力の育成を目指す教育活動を実践している。

また、教職員が児童生徒の表情や態度のささいな変化を見逃さないように努めているほか、教育相談やアンケート等を実施し、児童生徒が困ったときに相談しやすく、声を上げやすい環境を整え、早期発見に努めている。

その中で、いじめを認知した際には、適切な早期対応が必要と考えており、スクールロイヤーをはじめ、学校支援員などと連携を図りながら、いじめの解消に向け取り組んでいけるよう学校を支援していく。

教育委員 : 不登校児童・生徒の増加への対応について、私の意見を述べさせていただく。

不登校の問題は、家庭環境や学校環境など、多岐にわたる要因が絡み合っている。そのため、対応は非常に難しく、複雑である。しかし、私たちは一人ひとりの子どもたちが、再び学校に通えるようになることも目標の一つとして、支援していきたいと考えている。

大和市教育委員会では、不登校児童・生徒に対し、様々な支援を行っている。例えば、小学校には不登校児童支援員を配置し、学校現場と連携して不登校の未然防止や早期対応に努めており、また、中学校には不登校生徒支援員を配置し、教室に入ることができない生徒の継続的な別室登校や不登校状態の改善に繋がた。さらに、教育支援教室「まほろば教室」では、相談活動や学習支援、人間関係作りを通じて、子どもたちの社会適応能力を伸ばす取り組みが行われている。

これらの取り組みは一定の成果を上げているが、まだまだ課題も多く残っている。例えば、まほろば教室では、保護者による送迎が困難な場合の支援方法や、子どもたちにとって居場所となるような取り組みの見直しが必要である。

私たちの最も大きな願いは、不登校児童・生徒の数を減らし、ゼロに近づけることである。ただし、登校を目指すことはもちろん大切だが、それだけではなく、彼らが自分自身のペースで学び、成長できる場を提供することも同様に重要である。だからこそ、一人ひとりに寄り添い、支援を続けていきたいと思う。子どもたちが安心して学び、成長できる環境を整えるために、皆さんと共に努力していきたいと思う。

所管部：不登校児童支援員については、現在、重点校の小学校10校のみの配置となっている。不登校児童数は全国的に増加傾向となっており大和市においても同様に不登校となる児童数が残念ながら増加傾向にある。したがって今後は、これまで以上に市内の小学校どの学校においても継続的に不登校状態の改善に対応できるような支援体制の拡充が課題であると捉えている。

教育支援教室「まほろば」については、今年度より、より多様なニーズに応えるべく、コンセプト・支援体制の再構築に努めており、具体的にはこれまでの「まほろば」は言ってみれば、学習中心の支援だったものを、今年度からは引地台中学校分教室での実践を参考に、子どもたち自身が何をするかを選べる「安心できる居場所」として、教育相談・人間関係作りに重きを置いた支援を推進することとした。年度初めより、利用申請者数や月ごとの利用者延べ人数は昨年と比べ倍増しており、問い合わせの相談や見学も増えていること等、その成果が既に見え始めているところである。不登校児童・生徒に対する支援については、「ひとりひとりの児童・生徒の社会的自立を目指す」という視点を共有しつつ、不登校児童・生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えていけるよう努めていく。

教育委員：只今、教育大綱改定の方角性について、説明があった。

特に、本市の教育に関する事項において、最近の学校教育を取り巻く状況を踏まえた話があった。この数年間の社会情勢を見ても、新型コロナの蔓延によって、日本のみならず世界の国々が大きく混乱した。さらにロシアによるウクライナ侵攻やそれらをきっかけとした物価高騰の長期化など、様々な事象が次々と私たちに押し寄せてきている。将来を見通すことが難しい混沌とした時代にあって、困難や逆境を乗り越える力の向上については、市長もかねてより、その重要性についてお話しされており、私たちもその様に深く感じている。

子どもたちが様々な機会や教育を通じ、このような力を身に付けていくことは、将来、何か困難に直面した時にも、それを自分の力で乗り越えることを可能とし、豊かな人生を歩む支えになるのではないかと考えている。

私が今、大和市の子どもたちに伝えたいのは、自分を大事にするということは、ひいては他人を大事にするということにつながる。また、他人を大事にすれば、自分も大事にされるという相互の関係性が成り立つのである。このような理解を深めることで、子どもたちは他者との関係性を構築し、共生社会の一員としての自覚を持つことができるのだらうと考える。また、人生には様々な困難が待ち

受けているが、例え躓いたとしてももう一度、もう一回という諦めない気持ち、諦めない心を自分の中にどう起こさせ、持たせるかが重要である。教育現場においては、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育むことが求められる。失敗は成長のきっかけであり、それを乗り越える力を育てることが、子どもたちの将来にとって大切な要素となる。さらに、「決して1人ではない。味方は必ずいる。」というメッセージも重要である。子どもたちに、あなたのことを誰かが見ている、誰かが待っているということを伝えていくような教育が必要である。子どもたちが孤独感を感じることなく、支え合う関係性を築くことで、子どもたちは安心して自分の可能性を追求できるようになる。このような環境が整うことで、子どもたちは自信を持ち、自分の力で未来を切り拓いていくことができるのだろう。このように、自分自身と他者を大切にし、諦めない心を育み、支え合う関係性を築く教育は、子どもたちが豊かな人生を歩むための基盤となる。私たちは、このような教育環境を整えるために努めていく。

教育大綱の改定にあたっては、こうした視点や各教育委員の意見などを十分考慮しながら、進めていただきたいと考える。

市長：私からも一言申し上げたいと思う。子どもたちが、変化の激しい時代をたくましく生き抜き、そして、未来を切り開く力を養うためには、しなやかでポジティブな思考を身に着けることが、とても大切であると私は考えている。

そのためには、例えば、自然の中での体験活動やスポーツなどを通じて、困難や逆境を乗り越える力を育んでいく。このようなレジリエンス教育が重要であると考えている。

本日、委員の皆様から、たくさんのご意見やお考えを伺うことができた。それらをしっかりと踏まえながら、教育大綱の改定を進めてまいりたいと思う。

4 その他

5 閉会